

# 市民文芸

## 短歌

令和六年度阿南市文化祭  
秋季短歌誌上大会 選

### 入選

半世紀経ても忘れぬ音があるお腹で育つ吾子の心  
音 庄野 悦子

碧き空終戦の日に六歳の君はあの時夢を抱きか  
森 ゆき子

海霧が町を真白に包みこむ初夏のギフトに眠れな  
くなる 浅海 弥生

あかときの夢にほほえみわが名呼ぶ母と見しまに  
消えてしまえり 鹿島壽美子

サザエさんちびまる子ちゃんダメおやじみんな昭  
和のいい人いい子 郡 雅和

講座終え麒麟の視線で眺めたとりのビルの観  
葉植物 森岡 圭子

もう抱けぬ三十キロの米袋踏んばり効かぬ老いま  
ざまざと 高尾 久枝

貝堀りの帰路を満ち潮追うて来て無数の潮の道に  
囲まる 佐坂 恵子

白鷺も黄蝶も番える八月よ迎え火焚きて夫を待ち  
おり 宮崎喜美子

十余年のコンビ解消とう男女西瓜割るよにスパッ  
と切れたか 西條 悦子

死にたしと父は短歌に詠んでいる母を亡くして五  
年が過ぎる 竹田 雪湖

空調の音だけ響く子供部屋娘は数式を解いている  
らし 竹田 雪湖

パリ五輪悲喜こもごもで幕を閉じ我が人生はまだ  
まだ続く 十河 慶子

「今宵だけ私を観て」と人を恋う月下美人は最期  
に笑みる 手塚都樹子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

冬怒涛闇夜の怖き音にあり

水温む幼と遊ぶ土だんご

ビッグ雛路地の直売熟れ売れて

石ひとつ仏に似たり鼓草

酒蔵は伊根に一軒干鰯

一畝の半分程の犬ふぐり

電線の小鳥向き変へ春の風

阿波の道同行二人の暖かし

蒿苞を覆ふビニール冬牡丹

水温む育つ若苗見守りぬ

## 漢詩

### 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

### 緑陰問話

園庭花謝翠遮軒

好友尋來席可温

老氣猶餘三寸舌

閑談移刻忘塵煩

### 初夏偶吟

新緑扶疎玉就叢

路傍躑躅白兼紅

南薰繞屋方迎夏

獨有從容七椀中

### 陽關懷古

塞邊壘址立陽關

萬里千望茫茫間

回首漢胡哀史邈

可憐征戍幾人還

市田 嘉則

園庭 花謝して翠 軒を遮ざり

好友 尋ね来つて席 温める可し

老氣 猶お余す三寸の舌

閑談 刻を移して塵煩を忘る

新緑扶疎たり玉叢と就る 増喜 泰典

路傍の躑躅 白と紅と

南薰 屋を繞つて方に夏を迎え

獨り從容 七椀の中に有り

塞辺の壘址 陽関に立つ 松原 伸夫

万里千望 茫茫の間

首を回らせば漢胡 哀史邈かなり

憐れむべし征戍 幾人か還る

## 川柳

阿南川柳会 選

防災の準備みんなで汗をか

躡くな妻の手を取り箱根山

掛け違う釘が一ツ余ります

長生ぎをしたくてなつた気楽病

汗だくで慌てて拭くと眉が消え

感謝する事も教えて嫁に出す

細々と暮らしているのなぜ肥満

断捨離をせよとは脳に言わぬのに

### 一般応募

合格の電話はじける孫の声

失敗をいっぱい詰めた知恵袋

河内 おと

繁木 良子

田上 隆敏

青木 慧

中富はるか

小西 晴美

中川よし子

岡本 隆子

鎌田 黄鳥

北篠 憲治

佐藤つたえ

西田 修身

野村 敏子

橋本 征介

若木アヤ子

渡邊ろまん

神野 鈴代

鈴木レイ子

島尾美津子

武田 敏子

